

## 北九州 PCB 処理事業における安全活動

令和7年度についても、令和6年度から開始した JESCO 北九州 PCB 処理事業所（以下、当事業所という）の解体撤去事業を安全に進めるための取組として、処理施設の保全、トラブル防止および災害対策を以下のとおり継続して行っています。

### I 処理施設の保全

換気空調設備等、一部の設備や機器については、解体撤去事業を安全に進める上で必要となることから、令和7年度も引き続き、異常の早期発見を目的とした日常保全、専門メーカーによる設備の稼働確認や消耗部品などの交換、ならびに点検結果や経年劣化に基づく設備の補修を実施しています。

### II トラブル防止策

PCB 処理施設の解体撤去事業では、令和4年の操業再開以降に行ってきた①安全操業協議会と②リスクアセスメント推進会議に代えて、それらを一体化した安全推進協議会を令和6年度から開催し、トラブルの発生防止を図っています。

また、解体・撤去工事における安全対策として、工事受注業者主体で行う各種安全ミーティングのほか、JESCO 及び工事の管理・監督者等による安全パトロールを行い、トラブルの発生を防いでいます。

#### 1 北九州 PCB 処理事業所におけるトラブル発生防止策

当事業所ではトラブル発生を防ぐ目的で、定期的に安全推進協議会を開催し次の事項について計画の実施状況を確認・協議しています。

- ・未然防止対策の推進
- ・安全意識の向上
- ・解体撤去工事における安全対策の実施

#### 2 解体撤去工事の安全対策

##### ①解体撤去工事安全ミーティング

当事業所および工事受注業者により、工事着工前および定期に、安全対策に関する検討を行っています。

##### ②工事朝会、工事夕会の実施

解体撤去工事の実施中は毎日実施し、当日の作業内容や工事注意点の確認、および工事結果に対する問題点の確認を行っています。

### ③安全パトロール

解体・撤去工事の実施中は、事業所担当者によるパトロールを毎日実施し、不安全作業等の有無を確認し、危険の芽を早期に解消させています。なお、パトロール結果は工事夕会で報告し共有しています。

## Ⅲ 防災対策

### ①総合防災訓練の実施

令和7年度は10月15日に運転管理会社と共同で実施する最後の訓練を行いました。令和8年度については現在検討中です。

### ②防災対策委員会

大雪に伴う出勤困難が予想されたため、令和7年1月9日及び2月3日に手順書に従って出勤困難時の対応を行うよう呼びかけを行いました。結果、特に大きな被害は発生しませんでした。

### ③情報収集

気象庁が発表する大雨（特別）警報、暴風警報や高潮（特別）警報などの防災関連情報を逐次収集して対応案を適宜検討しています。

以上

## ヒヤリハット件数（令和7年1月～令和7年12月）

実際にヒヤリとした事例、起こるかも知れない仮想ヒヤリを通じ危険予知意識を向上し注意を喚起

年	R7年												計
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
状況	解体撤去												
実体験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
仮想	2	2	2	2	2	1	2	1	1	1	1	1	18

## 1. ヒヤリハット事例

## ① 実ヒヤリハット

月	内容	原因と対策
11月	<b>【その他】</b> フォークリフトを使用してトラック荷台上のコンテナを適正な位置に修正する作業において、一旦床面に降ろそうとしたコンテナがフォークリフトの後退（バック）動作中に傾き、床面にずり落ちた。	<b>【原因】</b> ・コンテナのフォークポケットに差し込むフォークリフトの爪の挿入量が浅かった。 ・トラック荷台上でコンテナの位置を修正する移動量が大きくなる作業手順で行っていたため。 <b>【対策】</b> ・差し込み不足を起こさないよう爪にマーキングを行い、教育訓練等を行った。 ・荷台上での位置修正が小さくなるよう作業手順の見直しを行った。

## ② 仮想ヒヤリハット

実際に発生していないが今後発生する可能性を検討し、未然防止対策を実施。

月	内容	原因と対策
3月	<b>【物の落下】</b> 運転廃棄物の詰替え作業では、廃棄防護服が入った袋だけを 100L 缶から引き抜こうとする。その際に 100L 缶も同時に持ち上がった場合、そのままの状態ですって 100L 缶を外そうとすれば、落下した 100L 缶で負傷する恐れがある。	<b>【原因】</b> ・100L 缶を持ち上げた状態で揺すってしまう。 <b>【対策】</b> ・100L 缶の使用を廃止し、袋だけを置くようにした。
5月	<b>【転倒】</b> 基幹物流室での作業終了後、ポストクレーンを操作しながら、クレーン旋回ロックを掛けようとした場合、踏台から転倒する恐れがある。	<b>【原因】</b> ・ながら操作による足元の注意不足。 ・旋回ロックがポスト後面にある。 <b>【対策】</b> ・ながら操作を禁止した。 ・踏台の床面にテープを貼付し、クレーン操作者の立ち位置を明示した。
8月	<b>【激突】</b> 今までと異なるサイズの鉄箱を、切断分別室内から屋外のトラックに積込む作業の際に、屋外を通行している作業者に衝突する可能性がある。	<b>【原因】</b> ・新たなサイズの鉄箱に注意し過ぎ、周囲への確認が不足する。 <b>【対策】</b> ・誘導者を付け、室外通行者の安全を確保する。

## 他事業所トラブルの水平展開状況(令和7年1月～令和7年12月)

No	年月日 場所	件 名	概 要	北九州事業所の対応
1	R7 年 4 月 22 日 北海道事業所	北海道 PCB 処理事業 所からの有価物(金属 類)に基準値超 PCB 含有油が混在して払 出し	<p>当初施設の解体撤去先行工事で生じた撤去物を真空超音波洗浄後、卒業判定で合格となったものを、有価物として A 社に払い出しを実施。A 社に搬入後、搬送容器から A 社所有カゴに移し替える際、搬送容器から再生溶剤と思われる液体が流れ出た。</p> <p>【原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解体撤去物の形状及び構造が複雑であり、液体が内部に留まりやすい箇所があったが、穴あけや半分に切断するなどの対策が不十分であった。</li> <li>・JESCO は、解体撤去物の切断方法を具体的に工事業者に指示することが不十分であった。</li> </ul>	<p>解体撤去物の処理は、洗浄装置ではなく、VTR(真空加熱分離装置)で行っているため、本事業所では発生することはない。また、北九州事業所では、切断したものの等が、要求通りになっているか JESCO 担当者が確認も行っている。</p> <p>その他、留意事項として注意喚起を行った。</p>